



九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ NO ECOLOGY. NO BUSINESS

K-RIP情報

KYUSHU RECYCLE AND
ENVIRONMENTAL INDUSTRY PLAZA

vol.1 #2012

(一財)九州産業技術センター

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609
URL <http://www.k-rip.gr.jp>



〔今号の1枚〕孫 中国山東省副省長と会談される鶴田会長（九州・山東省（済南）環境ビジネスミッション）

《Contents》	《Page》
I. 平成24年度K-RIP総会	2～5
II. K-RIPプロジェクト	6
III. 販路開拓プロジェクト	7
IV. 第1回環境エネルギー戦略会議 びわ湖環境ビジネスメッセ出展企業紹介	8～9
V. 九州企業・留学生交流フェア in 北九州	10
VI. 平成24年度九州ー山東省（済南）環境ビジネスミッション	11～14
VII. 環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」	15～19
VIII. 環境ビジネス研究会（九州環境クラスター大学）	20～21
IX. K-RIPのホームページリニューアル	22～23
X. K-RIPコーディネーターのご紹介	24
XI. 平成24年度 K-RIP事業計画	25～26

I. 平成24年度K-RIP総会

平成24年6月13日、ハイアット・リージェンシー福岡におきまして、企業・自治体等96会員（委任状：201通）の出席のもと、平成24年度九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）総会を開催しました。

冒頭、鶴田会長の挨拶およびK-RIP顧問の広実郁郎九州経済産業局長の来賓挨拶のあと、吉田哲雄（株）ワイビーエム代表取締役会長を議長に選出、平成24年度事業計画（案）など6議案について審議し、すべて異議なく承認されました。

今回の役員改選においては、理事に6名と監事1名が改正しました。

また基調講演では、株式会社産業タイムズ 環境エネルギー産業情報編集長の甕秀樹氏をお招きして、『世界が注目する「ニッポン発」最新省エネ&スマートコミュニティ技術』という演題でご講演いただき、大変興味深いお話を伺うことができました。

- （総会議案）
- 第1号議案 規約の改正（案）について
 - 第2号議案 平成23年度事業報告について
 - 第3号議案 平成24年度収支決算報告について
 - 第4号議案 平成24年度事業計画（案）について
 - 第5号議案 平成24年度収支予算（案）について
 - 第6号議案 役員の改正（案）について



〔主催者代表挨拶〕



〔議長を務めた吉田副会長〕



〔総会の様子〕

本日は、皆様お忙しい中、平成24年度K-RIP総会にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成11年11月にK-RIPが発足しまして、はや12年が経過いたしました。この間、K-RIPを取り巻く環境は、3Rを始めとした資源循環型社会の構築から低炭素社会の実現へと広がりを見せ、今や全産業、全企業が環境問題に取り上げていかなければならない時代に突入しております。

そして、昨年3月に発生した東日本大震災による被災地への復興支援、エネルギー問題が、こうした動きに更に拍車をかけております。環境ビジネスを志向しているK-RIPにとっては、新たなビジネスチャンスの到来とも言えますが、加えて、社会的要請にいかに応えていくのかという点においても、あらためて大きな期待が寄せられているのだと思います。

さて、本日の総会では、23年度の事業結果と24年度事業計画につきまして皆様にご審議頂きます。まずもって、23年度の活動では、多くの成果が出ていると伺っております。これも、会員皆様の果敢な挑戦が実った結果だと認識している次第です。

また、24年度の事業計画につきましては、1つの大きな目標を設定しております。それは、「イノベーションの創出促進と国際競争力強化」でございます。

この方針の策定にあたりましては、まず、環境・エネルギー産業をとりまく事業環境の変化について考察しました。皆様ご承知のとおり、環境・エネルギー分野のビジネスは、今や全国で勃興しており、各地でユニークな技術・システムが誕生しています。こうした企業等との交流は、イノベーションの創造がはかられる可能性があると思います。また、エネルギーの使用節減の動き等により、昨今、省エネ技術や省資源化等の技術に対する注目が高まっております。こうした技術等を取り込むことでも、新しいイノベーションが創造される可能性もあると思います。

このような「チャンス（機会）」がある一方、「脅威」となりうる兆しも顕在化しつつあります。国内では、人口減少、公共事業の減少、生産活動の停滞、廃棄物資源の海外流出等を背景として、市場の伸びが鈍化しつつある分野も出ています。また、海外でも、競争が激化しており、新市場の創出、農村部や非富裕層など未開拓市場の発掘等に取り組んでいくことも重要です。

こうした中、九州地域の環境・エネルギー産業が国内外における競争力を高めていくためには、「チャンス（機会）」を活かすとともに、「脅威」に備えた取組を実施していくことが重要であると思います。

チャンス（機会）を活かした取組としては、全国各地で誕生している環境企業との連携によるイノベーション創出や、省エネルギー分野の技術等との融合による新技術の開発などに取り組んでいくことが重要と思われます。こうした取組が、差別化された製品・サービスを生みだし、市場競争力を高めるものと期待されます。

一方、脅威への対処としては、新市場創出につながる試行的な取組（例えば、実証事業等）の推進、未開拓市場の発掘も重要と考えております。

このように、広域連携・異分野連携等によるイノベーション創造、新市場の創造・発掘に取り組み国際競争力を強化していくことが重要であると認識しており、24年度は、「イノベーションの創出促進と国際競争力強化」という大きな方針の下、各部会で事業が計画されました。詳細は、後ほど、各部会長から説明がありますが、皆様のご理解を頂ければと存じます。

さて、総会の後半に行われます基調講演は、環境ビジネスの最前線について情報発信をされている、株式会社産業タイムズ社の環境エネルギー産業情報編集長をされています「甕 秀樹（もたい・ひでき）」様から、ご講演を頂く予定でございます。各地で勃興する環境ビジネス、中でも省エネやスマートコミュニティ技術の最先端の動き等についてお話頂きますので、省エネなどの技術を取り組んでイノベーションを創造しようとする企業の皆様にとって、大変参考になるものと思います。

最後になりますが、K-RIP事務局のスタッフの一部に入れ替わりがあり、新たな体制となります。後ほど紹介がありますが、この新たな体制で、会員の皆様と一緒に、今年度もいろんな事業に取り組んでいくこととなりますが、引き続き、皆様方の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



■来賓挨拶 広実 郁郎 氏 【九州経済産業局 局長】

本日ここに、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K－R I P）の平成24年度総会が、鶴田会長をはじめ、会員の皆様方の多数のご出席の下、かくも盛大に開催されましたことに対し、心からお慶びを申し上げます。

K－R I Pが平成11年11月に設立され、はや13年目を迎えております。

九州経済産業局としまして、設立から全面的に支援してまいったところですが、経済産業省の「産業構造ビジョン」をはじめ、各所において、産業クラスターを通じた地域産業の海外展開事例として、K－R I Pは大変高い評価を受けるなど、今や全国の環境クラスターをリードする行動を期待されております。

こうした状況の中、九州経済産業局では、九州の強みを活かした戦略のもと、エネルギー・環境分野においては、「環境・エネルギー戦略」、「アジア戦略」を大きな柱として取り組んでいるところです。

特に、「環境とエネルギー産業の融合」や「環境関連産業におけるアジア向けビジネスモデルの構築」について、K－R I Pに大きな期待を寄せております。

K－R I Pでは、近年の自然災害の影響やエネルギー価格の高騰により、省エネ技術や省資源化等の技術に対する注目が高まる中、省エネ分野を重要分野と位置付け、高い技術力を有する地場の中堅・中小企業が市場に参入するための機会創出に向けた事業や省エネ・低炭素化に対する社会ニーズを捉えた事業の展開に取り組まれ、新しいイノベーションの創造に期待がされております。

さらに、海外では、競合企業との競争が激化する中、既存市場における差別化や競争力のあるビジネスモデルの構築、新市場の創出、農村部や非富裕層の市場など未開拓市場の発掘等に取り組んでいくことも重要となっており、中国山東省との環境ビジネス交流における新たなビジネスの創出、ASEAN・マレーシアでのビジネス交流の拡大展開なども大いに期待されております。

また、産学官連携を更に促進し、イノベーションの創出を促進するための取組として、九州域内はもとより、近畿をはじめ、他地域、他機関との連携の強化への取組も重要と考えております。

このように、これまでK－R I Pではそのネットワークを活かし、時宜にかなった多様な事業を展開されてきており、着実に成果を生み出してこられているものと認識しております。

九州経済産業局といたしまして、経済産業本省、他の地方経済産業局はもとより、他省庁、関係自治体、経済団体等とも密接に連携をとり、九州地域の環境・エネルギー産業のビジネスの拡大、国際競争力の強化に向けて取り組んで参る所存でございます。

最後になりましたが、K－R I Pの活動が今後さらに拡大し、ここにお集まりの皆様の環境ビジネスがより一層拡大することにより、九州地域の経済が活性化することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



■基調講演

「世界が注目する「ニッポン発」最新省エネ&スマートコミュニティ技術」

株式会社産業タイムズ社 環境エネルギー産業情報編集長 甕 秀樹 氏

【講演者略歴】

1990年早稲田大学法学部卒。

半導体メーカー、半導体業界誌記者を経て、2002年から産業タイムズ社「半導体産業新聞」の記者として活躍。

2008年4月より同紙副編集長、2010年より「環境エネルギー産業情報」編集長。2003年から2007年まではナノテクノロジーの専門誌「週刊ナノテク」編集長も兼務。

「週刊エコノミスト」（毎日新聞社）など他媒体にも執筆。著書に「編集長が語るスマートグリッド産業のすべて」（シーエムシー出版）などがある。



【講演概要】

本日は省エネについて話をするようご要望がありましたが、時間の制約もありエネルギー事情の概要について説明し、その後、廃熱利用、スマートコミュニティに絞ってお話をします。

現在エネルギーについて議論されているが、原発を何%にするかという話に終始している。むしろ熱を含めたエネルギー全体を将来的にどうするかという戦略が大事である。即ちベースロード電源の確立、再生エネルギー発電所の設備更新、太陽電池・蓄電池の一層の性能向上、メタンハイドレートなど新資源の実用化等である。

先ず再生可能エネルギーの動向ですが2012年7月「再生可能エネルギー特別措置法」が施行されました。これは再生可能エネルギー源を用いて発電される電気について、国が定める一定の期間、価格で電気事業者が買い取ることを義務付けるものです。これを受けてメガソーラー導入案件が100件近くに急増しています。1年前（震災前）の約3倍です。それでも発電量は60～90万kWで原発1基分程度です。メガソーラーで原発代替するには相当の土地、金、時間が要るということです。

太陽電池世界市場は毎年過去最高を更新する右上がり市場で2015年には45GWと予想されている。しかし太陽電池メーカーは儲かっていません。これは欧州（ドイツ他）の動きが頓挫したためです。供給が大幅な過剰状態（生産能力が需要の倍）となっています。

風力発電に関しては、日本での導入ポテンシャルは太陽光、中小水力、地熱に比べて突出している。中でも今後洋上風力が増えてくる。船の上に風車を載せて発電するものが出てきており日本でも実証実験が始まる。地熱発電に関してはここ10年ほど動きがなかったが、規制緩和も進み、安定した出力が期待されるので今後増えてくる。

広義のエネルギー環境問題は、電源の問題だけではなく輸送関連、工業分野も含め、すべての分野のエネルギーをどうするかという全体的な議論をすべきである。熱機関（蒸気機関、内燃機関、蒸気タービン、ガスタービン）が電力、自動車や鉄道、航空機などの動力を担ってきた。熱機関は芸術の域まで達している。ガスタービンは60%の効率、コンバインでは70%の効率を目指す。

高効率ヒートポンプ、排熱利用など熱利用も考えるべきである。ヒートポンプは日本のお家芸で日本発の技術として世界も注目している（ex：ヒートポンプを「再生可能エネルギー」のひとつに認定）。国内の再生可能エネルギー全体に占めるヒートポンプの割合は2020年で20%程度になる。政府は広範囲なアプリケーションを進め2050年までに現状の倍の効率、半分のコスト実現を目指す。ヒートポンプの新しい動きとして「室内空気を使ったヒートポンプ」「地中熱利用換気システム」等がある。

注目の「排熱利用技術」として「排熱も利用できる太陽光発電」「熱電変換素子：排熱を電気に変換」「熱音響機関によるエネルギー回生」等がある。

「省エネ・省資源の注目企業（技術）」として「振動発電デバイス」「ボイラー用燃料改質フィルター」「新電熱素材（省電熱フィルム）」「スーパーコンデンサー」「窓用高透明熱線反射フィルム」「トータル節水システム」等がある。

スマートコミュニティとはスマートグリッド技術を駆使し、エネルギーのみならず水、医療、交通、行政、農業、気象などあらゆるものをスマート化した新しい街づくりで、クラウドなどIT技術が鍵を握る。従来サプライヤー主導であったが、地域の特性・ポテンシャルを使って地域主導型に変わってきている。国内外で多くの実証事業が行われており世界全体で163兆円の市場規模になるとも云われている。ただ異業種の参加が必要であり推進するためには強力なリーダーシップが必要である。

Ⅱ. K-RIPプロジェクト

K-RIPプロジェクトとは、新たな環境関連プロジェクトに関する提案を公募し、採択したプロジェクトの実現に向けて、資金の一部助成や専門家による指導・助言を行う支援事業です。

平成24年度は、8件の応募があり、4件のプロジェクトが採択されました。

《審査日：平成24年4月25日（水）》

◆**提案者**：シタマ石灰有限会社

◆**テーマ**：「バイオマスのサーマルリサイクルにより製造するリサイクル製品の事業化調査」

◆**概要**：鶏糞焼却の際に発生する熱を利用した乾燥施設によって、貝殻やおからを乾燥し、製造するリサイクル肥料やエコフィードの事業化調査を行う。

◆**提案者**：竹田合同タクシー株式会社

◆**テーマ**：「農業用ビニールハウスでの、持続可能エネルギーによる、暖房システムの開発」

◆**概要**：農業用ビニールハウスの暖房に使用するため、家庭からの廃食油並びにBDF製造工場の粗グリセリンを混焼した燃焼実験や、農家の廃ビニール（PE、PP）の油化実験を行う。地域で不足する廃食油等の代替燃料として、バイオエネルギーの生産を行うためのシステムを構築する。

◆**提案者**：株式会社日本リモナイト

◆**テーマ**：「脱硫装置レンタルによる硫化水素ガス除去サービスの事業展開」

◆**概要**：下水処理施設、バイオマス施設では、脱硫塔に設置してある脱硫器に脱硫剤を充填し、脱硫器にバイオガスを通気して硫化水素ガスの除去を行っており、硫化水素ガスの吸着が終了した脱硫剤は脱硫器から取り出し、再度脱硫剤を充填し、取り出した使用済み脱硫剤に関しては埋め立て（産業廃棄物）処理されている。これを当社の脱硫装置レンタル方式に変更することにより、付帯作業の軽減、安全性の確保、当社所有のため産業廃棄物扱いとならずゼロエミッションが可能となる。また、既設の脱硫塔がある施設でも、本方式を取り入れ脱硫塔の前段に本脱硫装置を設置することにより、脱硫塔の劣化防止とランニングコストの削減が可能となる。全国の下水处理施設・バイオマス施設等に対してデモ器等を設置するなどして、この方式によるビジネスモデルを策定する。

◆**提案者**：公益社団法人みやま市シルバー人材センター

◆**テーマ**：「剪定くずの特殊肥料化によるグリーンエコ製品の開発」

◆**概要**：みやま市では家庭用の剪定枝を原料にして高速発酵施設によって6ヶ月間丁寧に完熟させた良質な「みやま産土たい肥」がある。この堆肥は農薬や化学肥料を一切使用していないため、きれいで美しい「高付加価値植物のグリーン製品」への利用が可能である。また、シルバー人材や身障者等の雇用することにより、優しい香りがしたり、ミニ果実ができるなどの葉触りの良いエコ植物製品を安価に提供することができる。快適で安心の資源循環型社会の実現、シルバー人材や身障者向けの雇用拡大を目指して、付加価値の高い特殊肥料の利用・試作研究による製品化とビジネスモデルを開発する。



〔プレゼンの様子〕



〔審査会の様子〕

Ⅲ. 販路開拓プロジェクト

環境に配慮した製品を作ったものの、うまく販売につながらない、新しい技術を開発したものの、どうやって宣伝したらいいのかわからない。優れた環境製品を開発しながら出口である販路について悩んでいる企業の方々は少なくありません。販路開拓プロジェクトでは、営業戦略構築に向けた専門家派遣や支援会議、国内・海外から集客のある環境展示会への無料出展、中小企業基盤整備機構やK-RIPのコーディネーターによるマッチング支援など、K-RIPネットワークを活用した様々な支援を実施しています。



平成24年度は、エコテクノ2012（北九州）、エコプロダクツ2012（東京）の2展示会に加えて、新たにびわ湖環境ビジネスメッセ（滋賀県長浜市）においても展示・セミナー・商談を行う予定です。

なお、平成24年度は、8社の応募があり、以下の3社の製品が採択されました。

《審査日：平成24年8月7日（火）》

◆**提案者**：株式会社 再生エネルギー開発

◆**製品名**：「3倍長持ちする再生バッテリー」

◆**概要**：オリジナルのバッテリー再生装置（SR819）は、電気処理による再生技術で、85%以上という新品に近い再生率を実現し、バッテリーを3倍以上長持ちさせることが可能。それにより、鉛バッテリーの廃棄量が3分の1になるとともに、必要な原材料（鉛等）も従来の3分の1で足り、環境への貢献度が高く、省資源リサイクルに繋がる。電動フォークリフトや太陽光蓄電池などのバッテリーの再生に最適で、価格は通常のバッテリーの3分の1と、価格競争力もある。

◆**提案者**：株式会社 サイム

◆**製品名**：「ラマンプラスチック識別機」

◆**概要**：研究室レベルの分析原理（ラマン散乱分光法）を用いた分子構造分析で廃プラスチックを種類毎に識別する、初の製品。比重法や反射吸収法に比べ、高精度かつ高速に識別が可能。また、サーマルリサイクル利用が中心であった廃プラスチックを家電リサイクル・OA機器リサイクル・容器包装リサイクルといったマテリアルリサイクルへの適用が容易となり、これにより、原料となる石油の使用削減にも貢献が可能となる。

◆**提案者**：株式会社 トワード

◆**製品名**：「ECO-SAM（エコサム）」

◆**概要**：自社開発したECO-SAM（エコサム）を用いて、個々のドライバーの運転を解析し数値化・可視化することで、安全運転とエコドライブの管理を簡単に行うことが可能。また、事故予備軍の早期発見も可能。使い方も非常に簡単で、装置をシガーソケットに差し、運行後専用のソフトに取り込むと、その日の運転状況を表した運転レポートが自動で表示される。数値化することで燃費改善が即座に可能となり、CO2排出量の削減による環境保全の実践が可能となる。

IV. 第1回環境エネルギー戦略会議 びわ湖環境ビジネスメッセ出展企業紹介

(株)ワイビーエム代表取締役会長の吉田哲雄氏（K-RIP副会長）を座長のもと、平成24年6月22日（金）に第1回「環境エネルギー戦略会議（以下「戦略会議」という。）」を開催しました。

【目的】

- ◆環境エネルギー分野へ事業を拡大することにより、国の産業振興政策や管内のポテンシャルを活かした取組を推進するため、「環境エネルギー産業の振興」に向けたネットワークの拡大や支援方法などを検討することを目的に、情報・交流部会の分科会として設置。
- ◆平成23年度に実施した「環境エネルギー研究会」の成果をベースとして、K-RIPの3部会（情報交流部会、ビジネス創出部会、国際ビジネス部会）における「環境エネルギー分野」の横断的取組を推進するための戦略的な検討を行う。

【構成】

- ◆戦略会議は、主に環境エネルギー分野に関するK-RIP企業（エネルギーソリューション・シーズを保有する企業及び省エネ関連企業等）のキーパーソン及び関係する分野の学術研究者並びに関係経済団体から選定する16名の委員により構成。
- ◆戦略会議の座長は、戦略会議委員でありかつK-RIP運営会議のメンバーの中から互選。事務局（K-RIP）が中心となって戦略会議を運営。

【テーマ】

- ①セミナー、商談会等のマッチングの場の検討・運営（需要側とのマッチングの場の創設）
- ②実証事業、海外展開への指導・助言、適宜事業への参加（ビジネスモデルの作り込み、海外ビジネス・連合体形成の推進）

【第1回戦略会議の成果】

1. 各企業の固有の強みを活かし環境エネルギービジネスを促進させるための取組

◆昨年度の「環境エネルギー研究会」での提言（①需要家とのマッチングの場の創設、②ビジネスモデルの作り込み、③海外ビジネス・連合体形成の推進）の具体化について検討。

◆平成24年度の重点取組として、①「九経連、福岡商工会議所等、域内政策支援集団と連携したセミナー等」の企画及び「びわ湖環境ビジネスメッセ」への出展・プレゼン、②戦略会議メンバー相互のビジネスモデル構築、③山東省ミッションへの参加を通じた連合体形成等の取組を選定。

2. K-RIP会員企業による「24年度先導的・試行的事業（イノベーションを加えたビジネスモデル）」の活用

◆(株)宮防の「畜産業の遮熱対策に向けた遮熱塗料の実証」について、各委員から今後の取組に向けた貴重なアドバイス（空調技術との融合によるニーズサイドへの提案の在り方（カスタマイズの方向性）等）を教授。

3. (株)正興電機製作所と東京ガスによる新商品の市場投入にみた連合体形成の効果

◆広域的な異業種（産業）連携により、市場への新商品投入を果たした「エネファーム停電対応システム」を事例に、社会的ニーズが高まっている省エネ分野へのビジネス展開の在り方を検討。

【第1回戦略会議 座長総括（概要）】

◆ユーザーサイドに近いポジションで政策支援を行っている「九経連」や「福岡商工会議所」等のセミナー・マッチング事業は、環境エネルギービジネスの拡大を促進する上で重要であり、K-RIPでは年度計画段階から九経連等と連携し、効果の高い事業を企画する。

戦略会議の風景



(株)宮防



(株)正興電機製作所

◆企業の生産活動において、省エネとピークカットは重要であり、環境エネルギー分野の新たな商品・システム・サービス等に対する市場のニーズは高い。ビジネスとして成功させるには、複数のシステムを組み合わせ、それぞれの技術を補完し合い、省エネやピークカットを実現することが重要。その際、産学連携や異業種との連携が有効であり、こうした取組（秀でたプロジェクト）を支援する制度づくりも重要。

【平成24年度 環境エネルギー戦略会議 委員】

NO	企業(団体)名	委員氏名	役職	エネルギー関係カテゴリー
1	韓キューベン	真武 秀和	企画部 参事	革新的エネルギー高度 利用技術等
2	昭和鉄工韓	福田 俊仁	執行役員 総合開発部長	
3	韓西部技研	岡野 浩志	取締役 技術開発本部長	
4	韓ワイビーエム	吉田 哲雄	代表取締役会長	
5	韓正興電機製作所	松尾 聡	取締役 事業開発本部長	省エネ・新エネ制御技術等
6	韓安川電機	山田 達哉	インバータ事業部 環境エネルギー機器事業統括部長	
7	西日本環境エネルギー韓	城島 一彦	新規事業推進部長	総合省エネ・新エネ
8	NPO法人エネ診断ネットワーク ジャパン	藤原 洋記	理事	コンサル等
9	環境テクノス韓	鶴田 暁	代表取締役	
10	韓九電工	今岡 浩司	エコ事業推進本部 エネルギー事業部長	建築・電機・空調等プラントエンジニア リング
11	空研工業韓	成清 重信	取締役 海外部長	
12	楽しい韓	松尾 康志	代表取締役	バイオマス
13	戸畑共同火力韓	川崎 順一	代表取締役常務	卸供給事業
14	九州経済連合会	箴島 修三	産業第二部長兼 環境部長	政策支援機関
15	福岡商工会議所	井原 隆博	商工振興本部 経済部長	
16	公立大学法人 北九州市立大学	松本 亨	国際環境工学部 環境生命工学科教授	学術研究者

【びわ湖環境ビジネスメッセ出展企業】

◆企業等の環境エネルギー分野における優れた製品・サービスの販路開拓支援事業として「びわ湖環境ビジネスメッセ（2012年10月24日～26日）」への出展等を支援します。

◆平成24年度は、以下4社の製品・システムが採択されました。

◆**提案者**：株式会社 正興電機製作所

◆**製品名**：分散電源を活用した「民生及び産業用」電力貯蔵システム

◆**概要**：本システムは、太陽光発電（PV）、燃料電池（FC）、マイクロコージェネレーション（CG）及び蓄電池から構成される環境対応マルチエネルギーシステムである。発電で発生した排熱を有効使用しているため、火力発電に比べてエネルギー効率が高く、発電した電力は地産地消となり送電ロスが少ない。

◆**提案者**：株式会社 宮防

◆**製品名**：省エネ遮熱塗料「ファームバリア Tio」

◆**概要**：本製品は、塗るだけで省エネ・節電に寄与できる遮熱塗料である。熱反射顔料と特殊セラミックの働きで、太陽光の近赤外線を効率よく反射・散乱・放射させることにより、室内温度の上昇を抑制し、冷房効率を著しく向上させる。用途は工場・一般住宅・畜舎の屋根や壁の他、生コンクリート車、飼料タンク・コンテナなど幅広い。

◆**提案者**：株式会社 安川電機

◆**製品名**：「Enewell-SOL エネウェル・ソル」

◆**概要**：本製品は太陽光発電用のパワーコンディショナである。汎用インバータで培った世界最高レベルの高効率パワー変換技術により、業界最高レベルの変換効率を実現。広範な入力電圧範囲により、太陽電池パネルの採用自由度を高める。また、系統電源停電時の非常負荷運転用として自立運転機能を搭載している。

◆**提案者**：株式会社 ワイビーエム

◆**製品名**：「地中熱利用冷暖房システム 熱交換井深度30m方式」

◆**概要**：本システムは、地中に熱交換用の井戸を掘削し、年間を通じて15～18℃とほぼ一定な地中を冷房時、暖房時の熱源として利用することにより、一般的に使用されている空気熱源方式のエアコンと比較して、30～50%前後の省エネを実現することができる。また、CO2排出量の削減や、夏場の冷房のピーク電力の消費を抑えることもできる。

V.九州企業・留学生交流フェア in 北九州

地域の中堅・中小企業がアジア展開する際に直面する「言葉の壁」、「現地市場動向の把握」、「現地でのネットワーク」等といった事業課題をクリアし、在日留学生等の能力を活かしたアジア展開戦略の普及を図るために、北九州市、公益財団法人北九州産業学術推進機構、九州グローバル産業人材協議会、九州経済産業局と連携し、九州企業と留学生のマッチング事業を開催しました。

【開催日時】平成24年6月25日（月）15時30分～18時30分

【開催場所】北九州国際／展示場（AIMビル3階展示場）

【プログラム】

15:30～17:00 留学生向け環境ビジネス業界セミナー

『九州の環境ビジネスの新潮流』／ K-R I Pアジア展開コーディネーター包振華 氏

『㈱ワイビーエムの海外展開戦略』／ ブサカ・カーステン 氏

『㈱筑水キャニコムの海外展開事業』／ 武井 和幸 氏

17:00～18:30 留学生が各企業ブースを訪問

【参加者】

〔出展企業等〕：19団体（企業16社、支援機関3機関）

〔来場した学生〕：102名

（大分大学、折尾愛真短期大学、北九州市立大学、九州工業大学、九州国際大学、九州産業大学、九州ルーテル学院大学、下関市梅光学院大学、下関市立大学、西南女学院大学、崇城大学、長崎大学、西日本工業大学、福岡大学、早稲田大学）



〔セミナー会場〕



〔企業ブース〕

VI.平成 24 年度 九州－山東省（済南） 環境ビジネスミッション

- K－R I Pと九州経済産業局は、K－R I Pと山東省人民政府との環境産業交流に係る覚書（以下、MOUという）（平成22年7月締結）及び山東省環境保護庁との具体的な交流事業の実施にかかるMOU（平成23年12月）に基づき、平成24年8月29日（水）～9月2日（日）の日程で、山東省済南市へ環境関連企業など17企業・団体、総勢35名（団長；鶴田 暁 氏（K－R I P会長、環境テクノス㈱代表取締役）、顧問；九州経済産業局長 代理；岡博士 氏（九州経済産業局資源エネルギー環境部次長）を派遣しました。
- 今回の環境ビジネスミッションでは、ゴミ処理発電施設等の「現地視察」、「セミナー」、「MOU調印式（2件締結）」、「緑色博覧会への出展」、「商談会」を開催しました。また、山東省人民政府と環境産業交流について意見交換を行い、今後も相互協力していくことを双方で確認しました。
- なお、「商談会」では、山東省済南市を中心に、青島市、聊城市、煙台市、日照市、済寧市、濰坊市、淄博市、北京市、上海市、天津市等から44社の中国企業が商談会に訪れ、合計68件もの商談が行われ、中国企業の関心の高さが伺えました。商談案件については、今後、K－R I Pのコーディネーター、ジェトロ等が、成約に向けて総合的にサポートしていく予定です。

【ミッションの行程】

◇ 8/29（水）

- ・ 出国 / ・ ジェトロ青島事務所によるブリーフィング

◇ 8/30（木）

- ・ 現地企業視察（2箇所） / ・ 両国の行政・産業団体トップによる意見交換

◇ 8/31（金）

- ・ MOU調印式（2件） / ・ 緑色博覧会視察 / ・ 九州先端環境ビジネスセミナー開催
- ・ 環境ビジネス商談会

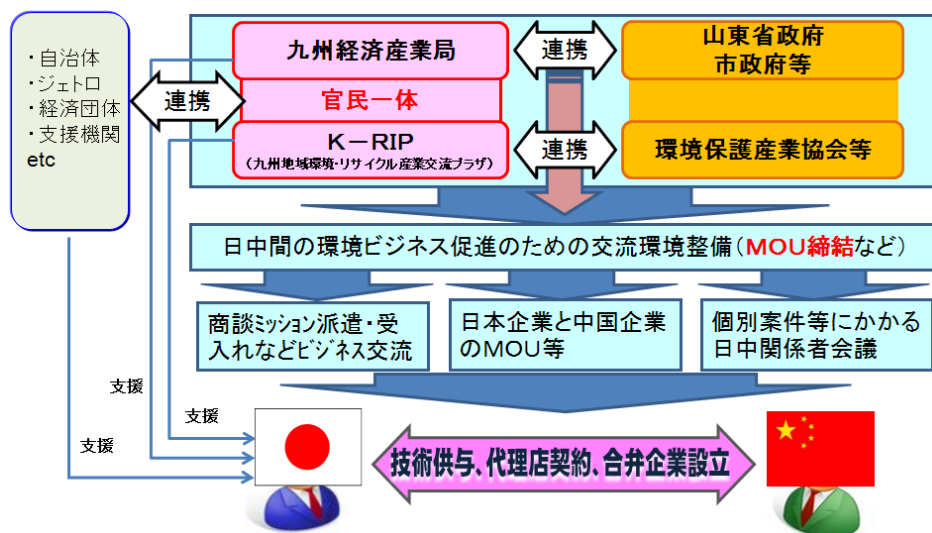
◇ 9/ 1（土）

- ・ 商談会

◇ 9/ 2（日）

- ・ 帰国

【K-RIPと山東省との交流スキーム】



1. K-RIP会員企業と山東省企業とのMOU等

(1) 下水汚泥処理システム導入の業務提携にかかるMOU

◆締結者：（九州企業）三菱長崎機工(株)

（中国企業）山東省環境保護科学研究設計院

◆内 容：三菱長崎機工(株)が製造する下水汚泥処理システム「メタサウルス」の中国市場への導入について、山東省環境保護科学研究設計院との間で、業務提携にかかるMOUを締結しました。



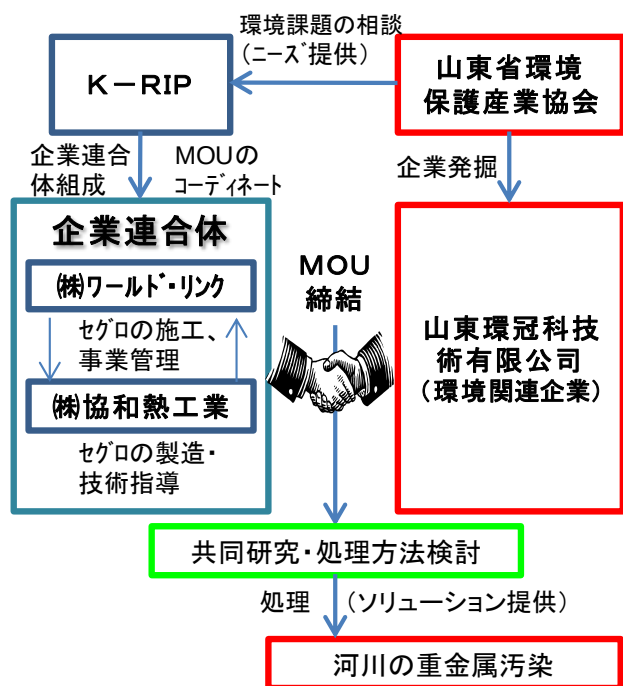
〔MOU調印風景；写真右側が三菱長崎機工(株)山崎常務〕

(2) 河川重金属汚染の共同研究及び処理にかかるMOU

◆締結者：（九州企業）(株)ワールド・リンク、(株)協和熱工業

（中国企業）山東環冠科技術有限公司

◆内 容：山東省環境保護産業協会からK-RIPに対し、河川の重金属汚染対策について相談があり、K-RIPコーディネーターが中心となって、ソリューション企業連合体（(株)ワールド・リンク及び(株)協和熱工業の企業連合）を組成しました。このソリューション企業連合体が、(株)協和熱工業が製作するセグロ液（重金属を無害化する特殊剤）を使って、山東環冠科技術有限公司と、河川の重金属汚染に対する国際共同研究及び処理にかかるMOUを締結しました。



〔ソリューション企業連合体のスキーム〕



〔MOU調印風景；写真右側が(株)ワールド・リンクの籾社長〕

2. 山東省政府との意見交換概要

(1) 山東省合同会見（山東省政府と各国代表団との意見交換）

◆日時：8月30日（木）17:30-18:00

◆出席者：

《山東省》 孫 偉 氏（山東省副省長）

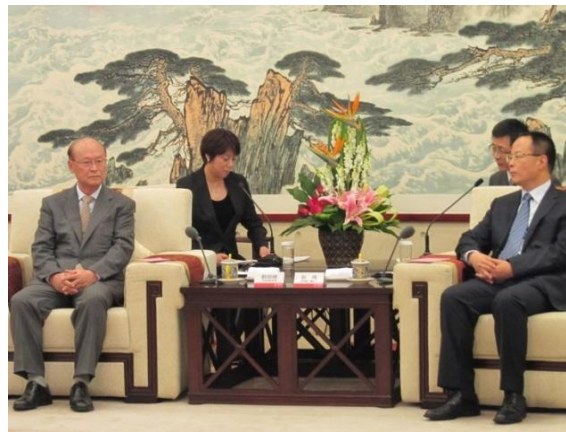
《日本（九州）側》 鶴田 暁 氏（K-RIP会長）

岡 博士 氏（九州経済産業局資源エネルギー環境部次長）

《その他参加国》 アメリカ、カナダ、韓国、シンガポール、台湾、ベルギー、香港

◆意見交換：山東省側から、緑色博覧会参加に対する九州側の協力について感謝の意が表明され、日本の先進技術等を積極的に学んでいきたい旨の発言がありました。

一方、九州側からは、優れた環境技術を持つ九州企業と、山東省の企業や研究機関との連携は、山東省の環境保全事業をさらに加速する可能性を示唆したほか、九州企業と山東省企業のMOU締結実績等を踏まえ、今回の緑色博覧会での更なるビジネス交流への期待、継続的な環境産業交流の実施による両地域の発展への期待を表明しました。



〔会見風景；左側が鶴田会長、右側が孫副省長〕

3. 「九州先端環境ビジネスセミナー」

◆K-RIPと九州経済産業局は、山東省政府の協力を得て、環境分野における九州と中国との経済交流の推進を目的として、上記セミナーを開催しました。

◆本セミナーでは、九州地域の環境ビジネスを広くPRするべく、九州の環境・エネルギー産業の紹介、K-RIPの事業概要、先進的な環境技術のプレゼンテーションを行いました。

◆なお、現地のセミナー参加者は約70名でした。



〔鶴田K-RIP会長の主催者挨拶〕



〔包・K-RIPコーディネーターのプレゼンテーション〕

4. 「環境ビジネス商談会」

◆K-R I Pは、九州経済産業局、ジェトロ、山東省関係機関の協力の下、緑色博覧会内に出展し、出展ブースにて「商談会」を開催しました。参加企業は、54社（日本側10社、中国側44社）で、合計68件の商談が盛況に行われました。

◆商談案件については、今後、K-R I Pのコーディネーター、ジェトロ、九州経済産業局等が、成約に向けて総合的にサポートしていく予定です。



〔商談会風景〕

5. 「現地視察」

◆光大環境保護エネルギー（済南）有限公司

・中国光大国際有限公司が2009年7月に設立した子会社で、都市生活のゴミ焼却熱発電施設を視察しました。

・同社は、エコ・環境保護・新エネを中心に急成長した企業で、江蘇省、山東省、福建省、広東省など各地で、ゴミ焼却熱発電、バイオマス発電、工業固形廃棄物の埋め立て、再生水利用等のプロジェクトを請け負っています。



〔施設全景〕

◆山東力諾瑞特新エネルギー有限公司（以下、力諾瑞特）

・同社は力諾グループとドイツのParadigma社の合資企業で、アジア最大の太陽エネルギー生産企業で、国内では山東省、河南省、上海市、海外ではキューバに生産拠点を持っています。

・力諾瑞特は、インドでは最大の太陽光エネルギーのサプライヤー、日本では政府指定の太陽エネルギープロジェクト用ソーラーパネル・メーカー、韓国ではプロジェクト市場ナンバーワンの真空管ソーラーパネル・サプライヤーとして、世界60カ国以上でグローバルに事業展開しています。

VII. 環境ビジネスの創出と人脈形成の場 「エコ塾」

—毎月第1水曜日開催—

K-RIPでは九州経済産業局と連携して、環境分野の人的交流、企業間交流の活性化を目的とする、「エコ塾」を毎月1回開催しております。「エコ塾」は、環境関連ビジネスに取り組む企業や環境ビジネスを支援する団体等のプレゼンテーション（毎回2社講演）と講演会後に行います参加自由型の交流会（立食形式）の2部形式となっております。

今回は第58回～第62回までの概要を報告します。

第58回エコ塾

【開催日時】平成24年3月7日（水）17:00～

【参加人数】講演会：60名 / 交流会：28名

○『“国産木質バイオマスボイラー”について』

〔発表者〕：株式会社 三基 環境事業部 部長 高田 勝秀 氏

〔概要〕：環境事業として取り組まれている木質バイオマスボイラーについてご説明頂きました。昨今のエネルギー問題や間伐材の有効活用を踏まえ、焼却炉で長年培ったノウハウを駆使し開発された「木質バイオマスボイラー（SANSANBIO）」は、カーボンニュートラルと定義されている木質バイオマス燃料の使用（間伐材のチップ、ペレット等）により、CO₂の排出を抑制し、燃料費の大幅削減に寄与します。当日は積極的な質問が数多く飛び交い、参加者の関心の高さをうかがい知ることができました。

○『環境にやさしい発酵副産物の有効活用について！

～3安（安心、安全、安価）な液体肥料、粘結剤等のご紹介～

〔発表者〕：味の素株式会社 九州事業所 新事業グループ 高橋 裕典 氏

〔概要〕：主力製品のアミノ酸製造過程において、作られる副産物である「液体肥料、粘結剤、菌体」についてご説明いただきました。これらの副産物は、「安心、安全、安価」な製品として販売されています。

液体肥料や菌体は、アミノ酸、核酸を多量に含み、特に核酸含有液肥は、根の成長点に作用する根張り効果抜群の商品として全国販売が開始されました（アミハート）。

粘結剤（バインダ）は、粉を固めて成型するためのつなぎとして、粉体成型や飛散防止に、農業・工業用途に幅広く利用されています。

この副産物は様々な分野で利用できる可能性を秘めているということもあり、参加者の関心を促す講演でした。



〔株三基 高田氏〕



〔味の素(株)九州事業所 高橋氏〕



〔講演会の様子〕

第59回エコ塾

【開催日時】平成24年4月11日（水）17:00～

【参加人数】講演会：84名 / 交流会：48名

○『投資会社から見た環境産業の可能性～今後の動向と着眼点～』

〔発表者〕：株式会社 環境エネルギー投資 ディレクター 中村 謙吾 氏

〔概要〕：投資会社から見た環境産業の可能性についてご説明いただきました。当社は、環境・エネルギー分野に特化した日本初のベンチャーキャピタルとして2006年に設立されました。スタートアップの支援、リスクマネーの提供 ならびに知識・経験・ネットワークの投入を通じて、環境・エネルギー関連ベンチャーの起業および成長に寄与できることを目的としています。今回は、注目する新エネ／省エネ技術等のクリーンテクノロジーの動向や、ベンチャー企業のビジネスチャンス、投資戦略について具体事例とともにご紹介いただきました。

○『農業・畜産業の救世主！～土壌改良と畜産飼育の改善について～』

〔発表者〕：株式会社 ジェム 代表取締役会長兼社長 新留 勝行 氏

〔概要〕：暮らしの「安心・安全」をめざして、土壌改良と畜産飼育の改善のために開発した技術についてご説明いただきました。当社の「ジェム電子有機肥料」は、土壌汚染による連作障害の回避、品質向上、収量増産化等に貢献し、国内で数々の実績があります。海外においても pH4.0以下の強酸性土壌で栽培が困難になった広大な農地（ブラジル）や砂漠・塩害 化地域（中国）の農作物栽培を可能とし、大きな効果を上げている事例が紹介されました。当日は積極的な質問が多く飛び交い、参加者の関心の高さをうかがい知ることが出来ました。



〔株環境エネルギー投資 中村氏〕



〔株ジェム 新留氏〕



〔交流会の様子〕

第60回エコ塾

【開催日時】平成24年5月9日（水）17:00～

【参加人数】講演会：66名 / 交流会：43名

○『“運転が見える化”～燃費向上と事故削減を実現～』

〔発表者〕：株式会社 トワード エコドライブ事業本部 本部長 友田 昭二 氏

〔概要〕：自社開発しているローコスト小型 GPS 車載システム「ECO-SAM (エコサム)」についてご説明いただきました。「ECO-SAM」はドライバー個々の運転状況を数値化（波状運転指数）し、“安全運転とエコドライブの実践度合い”を数値で“見える化”するシステムです。

波状運転指数は特許を取得しており、「ECO-SAM」は、環境保全（燃費向上に伴う CO2 排出量削減）、事故防止（事故予備軍の早期発見）、運転品質の向上に大いに貢献致します。

これまでに160社程ご購入いただいているお客様の声として、「ドライバーの運転意識が変わった!」、「安全運転により事故が大幅に削減できた!」、「実現! 燃費平均20%向上」等大変好評です。現在、日々急騰する燃料費は深刻な問題となっており、費用対効果に優れた「ECO-SAM」に関心を持った参加者から多くの質問がありました。

○『蘇れ、美しい水！！～水環境に優しい浄化装置「ジェットストリーマー」の紹介～』

〔発表者〕：株式会社 マリン技研 代表取締役社長 吉永 勝利 氏

〔概要〕：当社は長崎を拠点に水域浄化装置等の製造・販売・施工及び設置後のメンテナンス業務を主体として事業を行っており、長年の漁撈の経験から水に対する拘りが強く、ダム湖や貯水池、ため池、養殖場といった閉鎖水域の富栄養化現象（窒素、リンの増加）に対し、「自然に逆らわず、水の習性をうまく利用した独自の技術で、水を本来の自然の状態に戻す」いわゆる自然浄化をモットーに赤潮、アオコ、水質汚濁、悪臭対策等に取り組んでいます。開発した「ジェット・ストリーマー」は、国内だけでなく、中国、韓国、台湾、東南アジア、アメリカ、メキシコ等海外においても実績があるほか、下水道のマンホール工事（地下管路）における酸欠等の事故を防止するための安全で効率の良い送風設備を開発し、東京都下水道局から高い支持を得ていることなどが紹介されました。



〔榑トワード 友田氏・浦野氏〕



〔榑マリン技研 吉永氏〕



〔講演会の様子〕

第61回エコ塾

【開催日時】平成24年6月6日（水）17：00～

【参加人数】講演会：73名 / 交流会：46名

○『今から始めよう！省エネ対策「エコネット」で20%以上の消費電力削減を！』

〔発表者〕：株式会社 本田電気 取締役専務 本田 好之 氏

〔概要〕：昨今の夏場事情（連日35度以上の猛暑）を目前に、今から出来る省エネ対策「エコネット」設備についてご紹介いただきました。「エコネット」とは、編み方や強度に工夫がするなど自社で改良を重ねて開発したネットです。大型の室外機、折板屋根、屋根の上に設置している空調機等を「エコネット」で覆うことにより、20%以上の省エネを実現します。冬場は、寒気から室外機を守りおだやかな空気にすることで、フィンの凍結を防止します。「エコネット」は、安価で施工期間も短く、手軽に省エネ効果が得られるため、参加者の関心も高く、会場では多くの質問が飛び交いました。

○『九大発！エコフィード(食品残さ飼料)を活用した資源循環型社会の構築について』

〔発表者〕：九州大学大学院農学研究院 特命教授 中司 敬 氏

〔概要〕：九州大学は新キャンパスの立地する糸島地域の自治体、公的機関・団体、企業、農家、住民との連携を図り、地域の持続的発展を目的として、資源循環型社会を構築するためのプロジェクト研究を行っています。今回、紹介していただいた研究は、地域の食品残さ等の未利用バイオマスから油温減圧式乾燥技術を用いて、環境に優しい“エコフィード（食品残さ飼料）”を短時間で製造することを可能にしました。糸島の豚に安定的に給餌することで、養豚から肉の消費まで、いわゆる地産地消の資源循環型システムの構築を目指して展開している活動内容について説明がありました。資源循環型社会形成への関心が高まるなか、非常に有益なプレゼンであり、参加者の関心を促すプレゼンでした。



〔株〕本田電気 本田氏



〔九州大学大学院 中司氏〕



〔交流会の様子〕

第62回エコ塾（環境・新エネルギービジネスフォーラム&拡大版 i n 鹿児島）

【開催日時】平成24年7月24日（火）14：00～

【場 所】鹿児島東急イン（鹿児島市中央区5－1）

講演会：2階 オリオン / 交流会：1階 レストラン シャングリ・ラ

【主 催】鹿児島県、一般財団法人九州産業技術センター、K-RIP、
かごしまモノづくり推進協議会

【後 援】九州経済産業局、公益財団法人かごしま産業支援センター

【参加人数】講演会：117名 / 交流会：54名

九州全域にエコ塾の輪を広げるために、平成20年度より毎年1回拡大版と称して、福岡県以外の九州の他県においてエコ塾を開催しています。

今年度は鹿児島県において、鹿児島県やかごしまモノづくり推進協議会と共催で「環境・新エネルギービジネスフォーラム&拡大版エコ塾 i n 鹿児島」を開催しました。講演会、交流会ともに多数の方が参加され、県内外の方々との交流を深めることができ、盛況のうちに終了いたしました。

○開催挨拶：鹿児島県 商工労働水産部 産業立地課

産業支援対策監 幸進也氏



○基調講演：「九州における再生可能エネルギー関連産業の展開」

〔講演者〕：財団法人九州経済調査協会 調査研究部 部長 田代 雅彦氏

〔概要〕：最初に固定価格買取制度について簡単に説明していただき、その後、太陽光発電・風力発電・バイオマス・地熱発電・スマートシティについて、九州のポテンシャルや先進企業事例や課題などをわかりやすく詳細にご説明していただきました。



○「高品位！植物性廃食用油のバイオディーゼル燃料化」

〔発表者〕：株式会社 南光 第一開発部 技術課 課長 後藤 祐介氏

〔概要〕：建築金物や機械装置の製造等が主な事業である当社が、十数年前から新規事業分野として取り組み、自社開発した廃食用油の燃料化装置について紹介いただき、事業に取り組むことになった背景や開発経緯をはじめ、燃料特性、納入実績などについての説明がありました。バイオディーゼル燃料を精製するための従来の製法では、湯洗精製によって生じる水の排水が問題になっていましたが、この装置は乾式を採用しているため排水に関する問題が生じないことが特長の一つです。廃食用油のリサイクルを通じて、資源循環型社会の構築に寄与できる事業として紹介されました。



○「ラブ・マシーンで解砕した竹粉の活用方法について～牛用サイレージ、水稻苗床、生ゴミ堆肥～」

〔発表者〕：株式会社 サンケン・エンジニアリング 環境事業部 部長 佐藤 勝正氏

〔概要〕：当社が販売している孟宗竹揉み搾り機械（ラブ・マシーン）で加工した竹粉の活用方法について、いくつか事例を紹介いただきました。その一つとして、竹粉を乳酸発酵させたものを家畜飼料（サイレージ）として活用する事例が紹介され、特に焼酎粕と混合することにより発酵が促され、サイレージとして優れた特性を発揮することについて説明がありました。現在、竹粉サイレージの特性については、鹿児島大学と共同研究されておりますが、その加工方法によっては、サイレージの他にも水稻苗床や生ゴミ堆肥にも活用することが可能です。



○「低水位でも発電可能な、マイクロ水力発電装置【スイロン】について」

〔発表者〕：株式会社 ミゾタ 取締役兼環境技術研究所長 土井 研一氏

〔概要〕：水に関するトータルエンジニアリングである当社は、小水量でも発電可能な「マイクロ水力発電装置（スイロン）」についてご紹介いただきました。本製品の特長は、（１）低水位でも水の流れ（ $0.15\text{ m}^3/\text{s}$ 程度）があれば発電可能、（２）装置の小型化により既存水路に設置可能、（３）装置内のゴミ（流下物）のつまりを大幅に軽減、などです。発電出力が 0.5 kW ～ 10 kW までの機種を揃えており、既存の電力設備との系統連系も可能です。本製品を開発するに至った経緯や実証実験時の課題やそれをどのように克服したのかを詳細にお話いただきました。



○「高効率集熱を可能にした真空管ソーラーシステム～太陽の熱を利用する！～」

〔発表者〕：富士エネルギー株式会社 業務グループ マネージャー 臼木 宏任氏

〔概要〕：太陽光発電が脚光を浴びている昨今、よりエネルギー変換効率が高い太陽“熱”についても注目が集まっています。当社が開発した真空管ソーラーシステムは、太陽熱エネルギーを吸収する集熱部を真空の二重ガラス管にすることで断熱性と保温性が高まりました。さらに集熱器内部に水を入れないヒートポンプを採用しているため、従来型で課題となっていた空焚きなどによるヒートショックが発生しません。

また、平成21年度「新エネ大賞」では新エネルギー財団会長賞を受賞するなど、本システムについては高い評価を受けており、これまで、病院、福祉施設、温浴施設のほか、ハウス園芸などの農業向けにも設置実績があります。



〔講演会の様子〕



〔司会：江口ローデイナー〕



〔交流会の様子〕



〔鹿児島県 井多原課長〕

VIII. 環境ビジネス研究会 (九州環境クラスター大学)

K-RIPは、環境産業に携わる社会人等を対象に、環境産業のビジネスプランの研究、産学官交流ネットワークの構築を目的として9月5日～7日（2泊3日）にかけて合宿型の研究会を開催しました。

本研究会において新たなネットワークが形成され、グループワークを通じて4つのビジネスプランが提案されました。

今後、ネットワークを活用した新事業の創出等が期待されます。

【日時】：平成24年9月5日（水）～7日（金）〔2泊3日〕

【場所】：北九州八幡ロイヤルホテル（北九州市八幡東区枝光1-1-1）

【主催】：九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）、
一般財団法人九州産業技術センター

【後援】：九州経済産業局、福岡県、北九州市

【参加人数】：16名（社会人、学生、留学生（中国、モンゴル））

【プログラム】：◆開会挨拶 K-RIP情報・交流部会長 穂山 泰治 氏

◆基調講演 (株)エコファクトリー 代表取締役社長 村上 尊宣氏

「輻射式冷暖房装置ハイブリッドサーモシステム ecowin の国内及び海外事業報告」

◆4講義 A：「アジア環境ビジネス」松本 享 教授（北九州市立大学）

B：「環境コミュニティビジネス」鶴飼 修 准教授（滋賀県立大学）

C：「バイオマスビジネス」寺岡 行雄 准教授（鹿児島大学）

D：「CO2排出削減ビジネス」本田 大作 取締役（株）リサイクルワン）

◆グループ演習及び発表

◆企業訪問（「北九州エコタウンセンター」と(株)エコウッド）

【開校式&親睦交流会（9／5）】



〔開会挨拶
情報交流部会長 穂山氏〕



〔来賓挨拶 九州経済産業局
環境対策課長 松崎氏〕



〔基調講演 (株)エコファクトリー
代表取締役社長 村上氏〕



〔親睦交流会 開会挨拶
K-RIP会長 鶴田氏〕

【講演風景（9／6）】



【企業訪問（9／6）】



〔(株)エコウッド

代表取締役社長 石本氏〕

【集合写真】



〔エコタウンセンター見学〕

【講義&グループ演習】

- ◆ Aグループ「アジア環境ビジネス」
- ◆ 松本 享 教授（北九州市立大学）
- ◆ ビジネスプラン：
 - 「ウランバートルにおける廃棄物収集・リサイクルシステム構築事業の提案」

- ◆ Bグループ：「環境コミュニティビジネス」
- ◆ 鵜飼 修 准教授（滋賀県立大学）
- ◆ ビジネスプラン：
 - 「モンちゃんストロベリーファーム by Berry's システム」
 - ※コンセプト：イチゴ栽培・販売×リサイクル×環境教育

- ◆ Cグループ：「バイオマスビジネス」
- ◆ 寺岡 行雄 准教授（鹿児島大学）
- ◆ ビジネスプラン：
 - 「持続可能な山林育成ビジネス
～バイオマス発電所への林地残材収集・運搬事業について～」

- ◆ Dグループ：「CO₂排出削減ビジネス」
- ◆ 本田 大作 取締役（㈱リサイクルワン）
- ◆ ビジネスプラン：
 - 「株式会社スマートベジタブル 事業提案書
～太陽熱技術で救う日本とイエメンの農業～」

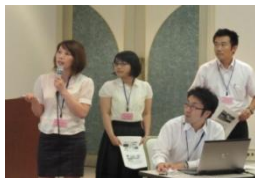
【講義（9／6）】



【各グループの演習風景】



【グループ演習発表&閉校式（9／7）】



〔各グループのビジネスプラン発表〕



〔各ビジネスプランの講評
ビジネス創出部会 副部会長 松尾氏〕



〔閉会挨拶 九州経済産業局
環境対策課長補佐 谷川氏〕

【アンケート結果】

- 参加者の約9割がカリキュラム・コーディネーター・テーマ等について「良かった」と回答。
- 感想：この経験を今後の仕事にいかしたい／環境ビジネスの奥深さや難しさが理解できた
今後、事業開発をしていくことに自信がついた／様々な方と交流できて良かった
- 要望：もっと色々な話を聞きたい（成功例・失敗例、ISO14001、ODA プロジェクト、生物多様性 等）
初めの顔合わせで全員と名刺交換する時間がほしい（1組1分程度）

IX. K-RIPのホームページリニューアル

平成24年4月に、「見やすい、使いやすい、役に立つ」を目指してK-RIPのホームページをリニューアル致しました。

具体的には、デザインの刷新、マッチング機能強化、ソーシャルネットワークの活用強化などを行いました。

情報発信に関しましては、事務局から的一方通行だけではなく、K-RIP会員の皆様がイベント紹介や新製品PRなどの情報を発信できる双方向の仕組みを構築しましたのでご活用下さい。

本ホームページを活用して、K-RIP会員皆様の発展の一助となれば幸いです。

(制作会社：日本トータルテレマーケティング株式会社)

【デザインの刷新&各コンテンツ名称】

The image shows a screenshot of the K-RIP homepage with 16 numbered callouts pointing to specific features:

- ① K-RIP について
- ② K-RIP 支援ツール活用例
- ③ 会員企業データベース
- ④ エコ塾の部屋
- ⑤ イベントカレンダー
- ⑥ メールマガジン登録
- ⑦ 関連団体リンク集
- ⑧ facebook
- ⑨ twitter
- ⑩ 会員からのお知らせ
- ⑪ 出版物ダウンロード
- ⑫ お問い合わせ
- ⑬ 重要なお知らせ
- ⑭ 最新のお知らせ
- ⑮ 事務局からのお知らせ
- ⑯ 公募・助成金情報

The homepage layout includes a header with the K-RIP logo and navigation tabs (HOME, K-RIPについて, 会員企業データベース, イベントカレンダー, 出版物ダウンロード, お問い合わせ). The main content area features a large banner for '環境産業の現在を、そして、未来を応援' and several sections for news and announcements. A sidebar on the left contains links to various resources and social media. A footer at the bottom provides contact information and a sitemap.

【各コンテンツ概要】

①K-RIPについて

・「K-RIPについて（目的、取組紹介等）」「事業計画」「役員図」「入会について（申込書）」「コーディネーター紹介」

②K-RIP支援ツール活用例

・K-RIP事業を活用してビジネスが発展した事例を紹介（事業別、分野別で検索可能）
・会員企業でK-RIP事業を活用してビジネスが発展した事例があればご連絡ください。取材に行き、記事を掲載いたします。



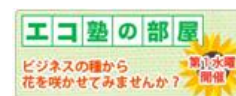
③会員企業データベース

・様々な条件（キーワード）からK-RIP会員企業を検索可能
・会員企業のビジネスマッチングをサポート



④エコ塾の部屋

・次回のエコ塾のご案内を掲載
・毎回のエコ塾の開催報告（写真付き）を掲載（会員企業は当日の講演資料が添付可能）
・エコ塾への登壇を希望される方に対してのエントリーシートを掲載



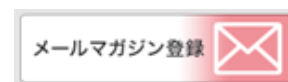
⑤イベントカレンダー

・様々なセミナーやイベントの情報を集約
・会員企業が主催する（周知したい）イベントの情報も掲載可能に



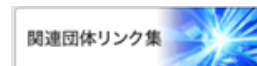
⑥メールマガジン登録

・定期的にK-RIP事務局から配信されているメールマガジンについて
簡単登録（解除も可能）



⑦関連団体リンク集

・「経済産業省」「九州経済産業局」「アジア低炭素センター」「財団法人北九州産業技術推進機構（FAIS）」「長崎環境・エネルギー産業ネットワーク」「財団法人宮崎県産業支援財団」「社団法人九州経済連合会」「EPO 九州」「JETRO」「J-Net21」「NEDO」「全国イノベーション推進機関ネットワーク」



⑧facebook , ⑨twitter

・K-RIP事務局や会員企業が発信する情報がSNSを通じて発信可能に



⑩会員からのお知らせ

・電話や「⑫お問い合わせ」にて、K-RIP会員の皆様からご連絡があった案件（イベントの周知、新製品PRなど）について掲載

⑪出版物ダウンロード

・「K-RIP情報誌」、「パンフレット」、「K-RIP会員企業便覧」、「K-RIP会員の製品紹介」、「エコ塾成果事例集」などの電子媒体データが掲載（バックナンバーもあります）

⑫お問い合わせ

・4種のお問い合わせが可能（「K-RIPへのお問い合わせ」「会員企業さまからの個別相談」「ウェブサイトへの情報掲載について」「企業登録情報変更」）

⑬重要なお知らせ

・締切が迫っているイベントや公募情報などを掲載

⑭最新のお知らせ

・⑩、⑮、⑯の情報について最新の情報を上から時系列で掲載

⑮事務局からのお知らせ

・イベント案内や事業の開催報告などについて掲載

⑯公募・助成金情報

・公募や助成金の情報について掲載

X. K-RIPコーディネーターのご紹介

K-RIPの各事業を効果的・効率的に進めるため、国内コーディネーター1名、アジア展開コーディネーター1名を配置し、それぞれ月15日程度活動しています。

御用の際は、お気軽にご相談ください。お待ちしております。

《 国内コーディネーター 江口 博 》

私たちの住む九州は、大工業都市であった北九州市を代表に、長い間、環境問題に取り組んできました。現在では問題を克服しただけでなく、一人ひとりの高い環境意識につなげ、中には問題を強みに昇華させた事例さえあります。

昨年、我が国は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、ひとつの大きな分岐点を迎えました。今回の震災は、各論の議論に留まることなく、様々な分野、視点から横断的に捉えられ、日本人としてのアイデンティティを私たちに再考させる機会となりました。

震災により失ったものは、尊い多くの命だけにとどまらず、あまりに大きいものでしたが、それでも前進するしかないのだと、私は強く思っております。

この厳しい状況の中、K-RIPはこれまで以上に、環境貢献と経済の復興、そして人材の育成に尽力し、現在の危機に対して正面から立ち向かって参る所存です。具体的には、イノベーション創出や、各種技術の融合により生み出された九州の魅力ある製品やサービスを、全国に広めるべく、全国各地の環境クラスターとの積極的な連携を図ります。

私自身も、情報発信やマッチングを通じ、皆様のビジネスの創出・拡大にお役にたてるよう努めて参りますので、お気軽にご相談ください。



《 アジア展開コーディネーター 渡辺 華奈絵 (包 振華) 》

九州はアジアの玄関都市とし、古くから中国大陆および西洋文化の入口として栄えてきた歴史があり、いま日本・中国・韓国というアジア経済圏の合計は「世界の二割」を占める経済規模に成長しており、21世紀はアジアの時代と言われています。

九州成長戦略アクションプランでは、アジア展開、環境エネルギーが戦略分野として取り上げられている中、K-RIPはその先頭に立って、まず会員企業の中国進出のために4年前から本格的中国の遼寧省と山東省との産業交流を含めてビジネス支援を行っております。

私は日中両国の商文化に精通し、日本企業の立場でビジネスを考え、コーディネート業務を遂行し、そしてこれまでの経験と中国での人脈を活かして、皆様に良いパートナーを見つけ、より多く「Made In K-RIP to China」が実現できるように全力で努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



XI. 平成24年度K-R I P事業計画

平成24年度、以下のとおり、多くの事業を予定しております。事務局一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時	事業名	場所	連携団体
平成24年4月 ～平成25年3月	エコ塾（毎月第一水曜日開催）	福岡合同庁舎（本館）	九州経済産業局
平成24年4月 ～平成25年3月	K-R I Pプロジェクト （審査会：4月25日、4件採択）		
平成24年6月13日	K-R I P役員会、総会	福岡市	
平成24年6月 ～平成25年1月	専門家派遣事業		K-R I Pフェロー 日本技術士会等
平成24年6月22日	第1回環境エネルギー戦略会議	福岡市	
平成24年6月25日	九州企業・留学生交流フェア in 北九州	北九州市	北九州市 （公財）北九州産業学術推進機構 九州グローバル産業人材協議会 九州経済産業局
平成24年7月24日	環境・新エネルギービジネスフォーラム&拡大版エコ塾 in 鹿児島	鹿児島市	鹿児島県 かごしまモノづくり推進協議会
平成24年8月 ～平成25年3月	販路開拓プロジェクト （審査会：8月7日、3件採択）		
平成24年8月29日 ～9月2日	中国山東省環境ビジネスミッション （R I T事業）	中国山東省 済南市	J E T R O福岡 J E T R O青島
平成24年9月5日 ～9月7日	環境ビジネス研究会 （九州環境クラスター大学）	北九州市	
平成24年9月12日	九州環境ビジネス大賞選考、審査 （エコテクノ2012にて表彰式）	福岡市	
平成24年9月24日	B O Pビジネス研究会 （年3回程度開催予定）	福岡市	
平成24年9月24日	B O P・P P Pアジアビジネス 戦略セミナー	福岡市	九州活性化センター 九州経済連合会
平成24年10月11日 ～10月13日	環境展示会出展事業 （エコテクノ2012に出展）	北九州市	西日本産業貿易コンベンション協会

平成24年10月11日	環境ビジネスアライアンスマッチングセミナーin北九州 (他地域のセミナーにも参加予定)	北九州市	
平成24年10月12日	アジア環境ビジネス商談会 (韓国とのビジネスマッチング事業) (エコテクノ2012にて開催)	北九州市	北九州市
平成24年10月12日	平成24年度第5回 九州環境ビジネス大賞表彰式及び事例発表	北九州市	
平成24年10月24日 ～10月26日	環境展示会出展事業 (びわ湖環境ビジネスメッセ2012)	滋賀県長浜市	
平成24年11月	第2回環境エネルギー戦略会議	福岡市	
平成24年12月	A S E A N 調査ミッション	マレーシア	J E T R O
平成24年12月7日	環境ビジネス交流会	福岡市	九州経済連合会
平成24年12月13日 ～12月15日	環境展示会出展事業 (エコプロダクツ2012に出展)	東京都	
平成25年1月	環境イノベーションフォーラム	未定	EPO 九州 九州経済連合会
平成25年2月	環境エネルギーセミナー (環境エネルギー戦略会議 関連)	福岡市	

【Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza】(K-RIP)

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局



〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
(一財)九州産業技術センター内
TEL 092-474-0042
FAX 092-472-6609
URL <http://www.k-rip.gr.jp/>
e-mail info@k-rip.gr.jp

